

音楽三田会

〒105 東京都港区西新橋1-10-8
第2森ビル ミリオンコンサ
ート内 音楽三田会事務局
TEL 3501-5638
印刷 啓文堂

様変わり——三田の音楽講義の このごろ

美山 良夫

「慶応は三田に四十八億円をかけて国際会議場、舞台芸術、音楽、美術などを研究するアート・センターを建設中」といった記事が、『日経ビジネス』の四月五日号に出ている。これは取材に来ながら話をよく聞かなかったらしい記者の早合点で、正しくはない。だがまったく間違いない。いま、慶応における音楽や他の芸術をめぐる状況は、大きく変わる時期にさしかかっている。その辺りを最新の動きを含めお伝えさせていただきます。



美山良夫氏

日吉の教室や銀杏並木で村田武雄先生を見かけた方は少なくないであろう。私は三田の西校舎で、先生の、やさしく、かんでふくめるような解説で、多くの作品を教えられた授業の様子を、いまも鮮やかに覚えている。受けている学生は多かった。いま自分が教師になってみて分かったのだが、あれほどの人数の答案を採点するのは並大抵でなかったはずである。

それから四半世紀。三田の教室には音楽が鳴らない日がないほど音楽関係の講義は増えている。日吉の間まで一般教育といていた「音楽」の授業は全学部共通でおこなわれており、担当者のをぞいて変化はない。大きく変わったのは三田。その最初は、日吉に研究室のあった中野博詞先生が、三田に移り文学部美学美術史学専攻に講座をもったこと

に始まる。専門教育課程で、美学や美術史とともに音楽史、音楽学の講座ができたことは、慶応義塾として音楽の専門家養成を認めているということである。

その時まで、慶応で音楽を勉強するといえば、大学の単位とは直接には関係がなかった。二十年あまり前、「西洋音楽史概説」と題された講義や、音楽を学ぶゼミが始まった。担当は中野博詞先生であった。そこから大野洋氏、つぎにテュービンゲン大学に留学、パツハ全集の校訂者で音楽評論でも大活躍中の樋口隆一氏（明治学院大学）、小生を第一世代として、音楽研究、評論、関連事業で活躍する人が生まれている。

もちろん、この講義やゼミとは別のところから、音楽に進む人もいろいろで、現在のところは、慶応出身の音楽関係者の全体からみれば、まだ割合としては多くないだろう。

次の大きな飛躍は、遠山音楽文庫の寄贈であった。遠山一行氏が昭和三十七年に遠山音楽財団を設立、その時から二十年にわたって収集してきた、多数の貴重資料を含む音楽学関係の選りすぐりの文献、楽譜、レコード合計三万点が、三田の図書館に収められた。遠山氏は、義塾に寄贈することにしたのは、氏が昭和二十年代に慶応高校で音楽の授業を持たれていたこと以外に（この時、林

光君や小林亜星君や峰岸壮一君らが講義を受けている）慶応が戦前から批評、戦後は音楽学で人材を輩出していること、図書館が広く社会に開放されていることが理由であるとしている。昭和六十年春、慶応は日本の総合大学で、もつとも膨大かつ貴重な音楽資料の宝庫となった。早い話、欧米で刊行されている作曲家の全集楽譜は、まず三田の図書館で見ることがができる。

遠山氏は、同時に慶応における音楽学の発展のために基金を寄付、その果実で、文庫の充実、研究活動、レクチャー・コンサートが行なわれている。また、これを機会に、新たに「音楽学」という講義が設置された。このほかに久保田万太郎記念講座（「現代芸術」と「詩学」からなる）でも、音楽に関する講義がある。というわけで、現在はほぼ毎日、音楽関係の講義が、学部、大学院で行なわれている。いったいどんな内容なのかというと、とても一言ではいえない。かつて遠山氏は、日本の現代音楽のことを講じられたことがあったが、これは文庫寄贈より前。西洋音楽史は、中野教授が古典派や初期ロマン派を、三年前から専任になった小生はバロックや近代の音楽について話している。

だが、それよりも各界でその分野の第一人者として知られる方を、講

師にむかえることができたのは、やはり慶応の伝統というものであろうか。一昨年は林光氏が「詩学」を担当された。いソノてルヲ氏はジャズ講義をされた。山田耕筈研究の後藤暢子氏は、全集楽譜校訂のかたわら山田耕筈論を現在講じている最中である。皆川達夫氏は、得意の中世ルネサンス音楽を長く担当された。

日本人が西洋音楽を論じる一方、日本音楽の歴史は、オーストラリア出身のネルソン氏が受け持ち、学生が知らない漢字を使って熱心な講義を進めている。

三田に音楽学の講義ができて二十年あまり。その間十一名が外国に留学、現在もニューヨークとザルツブルグに留学中の者がいる。帰国後は、大学の教員になったり、水戸芸術館のような音楽関係施設などで働いて

音楽三田会第20回懇親総会から

音楽三田会第二十回懇親総会が一月三十日に帝国ホテル内の東京三田倶楽部で開かれた。参加したのは会員四十一人と、家族・友人二名の合計四十三人。寺西春雄氏の叙勲を祝い、近況報告に花を咲かせた。

●音楽三田会第20回懇親総会参加者の近況報告から

◇寺西春雄君

「考えてみれば音楽学分野でも、私よりはるかに先輩の方がいらっし

いる。

三田ではいま、コンサートやレクチャーも行なっている。サヴァリツシュ氏がR・シュトラウスを語り、デ・パブロ（スペイン）、ブライヤース（イギリス）らの作曲家が自作とその背景を語った。演奏が入ると大変だ。教室が会場なので、演奏中に不粋な始業ベルが入らないようにヒヤヒヤする。だがイタリア大使館のカラスを黙らせる名案はない。文学部創立百年にあたっては、中村絃子さんと千住真理子さんの演奏会を行なった。

音楽にかかわる多くの人材を育てた慶応に、まともなホールがないのは嘆かわしい。だが、かつて山食のあった場所に建設中の建物には、国際会議場と兼用ながら、座席数二百四十の小さなホールができる。まだ

使用規定も未決定だが、ぜひとも質の高い、大学にふさわしい音楽会を行ないたいものである。

となると、音楽三田会の先輩の方々にお願いしなくてはならない事態が生じるのは目に見えている。年末には建物は完成するであろう。いづれ、この三田会の集まりを、三田の山の上で開きたいものである。

◎薬科雅美コレクション、慶応へ寄付される

今春逝去された音楽評論家、薬科雅美（塾員）の所蔵レコード、楽譜、音楽書類は、日本近代音楽館へ寄付される手稿、氏の著述を掲載したものをのぞき、慶応義塾大学に寄贈された。今後、教育・研究に利用されることになる。

表までの間は口外してはいけないと言われたんですが、閣議の決定前から、内祝いを贈るためのカタログの封筒が沢山ポストに入れられていました（笑）。とにかく、皆さん勲章

を見せろ見せろというもんですから、本日は持ってまいりました。（全員から拍手を受ける）これから、もつと本気でやりなさいというケジメとしてくださったんだと思って、ここで気持ちを新たに頑張っていきたい

と思います」

◇小林亜星君

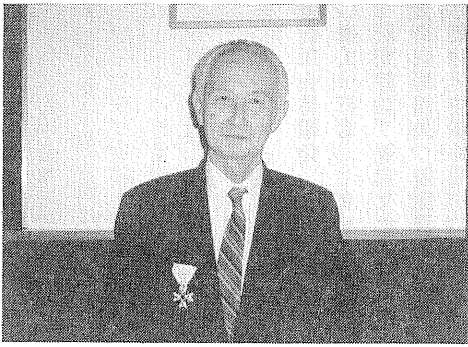
「仕事の方は六十を過ぎたらもうないだろうと思ったんですが、テレビ・ドラマの音楽を書いたり、去年はこともあろうに黒沢明監督の三十本目の映画『まあだだよ』に出させてもらいました。頭がぼうずのせいとか、坊主の役だったんですけど、普通部の同級生だった日下武史クンと一緒にやらせてもらって、とても楽しかったです」

◇中山富士雄君

「野村光一先生が会長でいらしたときに初めて出席して以来、誠に申し訳なかつたんですが、仕事の都合で今日まで出席できませんでした。今日は寺西先生のお目出度日ということで、馳せ参じたわけでございます。昨年三月から八月にかけて肝臓が悪いということでCTスキャンを三回、MRIを一回という検査を受けたのですが、結局何でもないという結果が出まして、安心しております」

◇三善清達君

「現在、東京音楽大学と武蔵大学で教鞭を執るかたわら、『音楽の友』と東京新聞を中心にオペラや声楽の批評を書いております。ほかにも府中の森芸術劇場や三越劇場の相談役をやったり、今度できます新日鉄の新しいホールにもからんでおります。



寺西春雄氏

音楽賞では新日鉄音楽賞やモービル音楽賞の選考委員をやっております。そんなことで何かと慌ただしい日々を過ごしております」

◇佐藤敏直君

「東京現代音楽祭も一昨年、赤字を出さずに無事終えることができた。これからはプロ同志の間での新しい楽譜のやり取りではなくて、例えば小学生だとか一般のアマチュア、それに大学のオーケストラと現代の作品で交流しようということ、早稲田のオーケストラと慶応のワグネルと話をしたところ、早稲田は出演費二百万円を要求してきました。それでワグネルに話しましたら二十万でいいということになったんですが、こちらに予算がありませんで、話は次回に伸びてしまったんですが、それ以来、ワグネルに新しい作品を演

奏してもらおうと考えております。昨年は毎日新聞の音楽特別賞と音楽之友社賞を受賞することができました。これまで日本現代音楽協会事務局長を勤めてきましたが、任期切れになりますので、四月からはもつと本来の仕事ができるかなと思っております」

◇斎藤明子さん

「昨年四月に留学から帰国いたしました。本格的に活動を始め、五月にはソニー・レコードから初めてのCDを出しました。昨年はスペインでオリンピックが開かれましたし、ギターはスペインに強い楽器ということ、スペインの曲ばかり集め、タイトルも『スペイン』にしました。今年の夏はヴィラロポスとボンセ、パリオスといった作曲家の作品を集めてCDを出す予定にしています」

音楽三田会第二十回懇親総会参加者

1993年1月30日(出)13時 東京

三田俱樂部

- 秋山晃男、穴井康恵、天野恵子、伊藤正文、岩尾純一、いソノてルヲ、岩間宏文、石田一志、今尾宏樹、石川浩司、大山英治、大野洋、大橋幸雄、小尾旭、加宮令一郎、木戸敏郎、君塚裕重、黒沢宏、小林亜星、近藤亮一、呉信樹、佐藤敏直、斎藤明子、清水久嗣、寺西春雄、中野博詞、成毛滋、中村勝彦、中山富士雄、中尾玉樹、中川滋、藤崎凡、正富元久、

音楽三田会・会計報告 (1992.4.1.~1993.3.31)

(会計監査・岩尾純一)

収入の部

会費収入	927,000
銀行利息	1,960
第19回懇親総会 (7月18日)	333,000
第20回懇親総会 (1月30日)	215,000
合計	1,476,960

支出の部

第19回懇親総会支出	333,000
第20回懇親総会支出	204,600
会報第4号印刷費	78,280
名簿印刷費	91,979
案内郵送料	98,500
案内状コピー代	8,740
案内はがき・封筒印刷費	28,840
合計	843,939

収入一支出

繰越金	△498,747
次期へ繰越金	134,274

掲示板

●会員消息

☆植村泰一君 (文1957卒、N響 団友フルート) 4月1日、東京音楽大学学長に就任。

☆猿谷紀郎君 (法1983卒、作曲第3回出光音楽賞受賞)

三善清達、美山良夫、宮島将郎、村山宣久、山下ひろたか、杜こなて (吉田耕一)、油井正一、若松正司。以上、会員41名、家族・友人2名、合計43名。

☆ターク・ダックスII遠山一 (経1954卒)、喜早哲 (経1953卒) 高見沢宏 (経1956卒)、佐々木行 (経1955卒) 紫綬褒章を叙勲。

☆中村紘子さん (中1959卒、ピアニ) ルービンシュタイ・ゴールドメダルを受賞。

☆斎藤明子さん (高1986卒、ギター) 平成5年度村松音楽賞受賞。

☆延命千之助君 (文1950卒、N響 団友・アンサンブルオーケストラ 金沢顧問) 故渡邊暁雄氏の業績を踏まえて指揮者の育成などを目

的とした音楽基金が設立され、第1回の特別賞を受賞。

☆鈴木敬介君(経1957卒、演出・教育)平成4年度第20回ソロ・オペラ賞受賞。

☆寺西春雄君(経1944卒、研究評論)平成4年勲四等瑞宝賞を叙勲。

●新入会員紹介

◇遠山一行君(1991年特選塾員、研究評論)東京文化会館・東京芸術劇場館長、財団法人日本近代音楽財団理事長

◇垣ヶ原靖博君(商1963卒、関連事業)株式会社東京コンサーツ取締役

◇迫村裕子さん(幼稚舎英語教師)トランスフォーム代表取締役社長

◇木戸敏郎君(文1955卒、研究評論・演出)国立劇場演出室長

◇河合弘隆君(法1970卒、楽器)河合楽器製作所取締役社長

◇三浦久司君(経1957卒、楽器)・ピアノ)三浦印刷株式会社取締役社長

◇佐藤充彦君(経1964卒、作曲・ピアノ)有限会社スパイス・カムパニー・LTD代表取締役

◇猿谷紀郎君(法1983卒、作曲)◇中川 滋君(文1965卒、ギター・関連事業)日本橋書房・三栄社代表取締役

◇林原 靖君(商1969卒)林原

グループ専務取締役

●物故会員
◇藤岡公夫(法1952卒、研究評論)1992年5月20日没

◇薫科雅美(医1938退、研究評論)1993年1月3日没

◇繁沢 保(経1948卒、元日本コロムビア洋楽部長)1993年3月26日没

◇朝吹英一(経1933卒、マリンバ・ヴィブラフォン、日本木琴協会会長、千代田組取締役相談役)1993年6月14日没

●音楽三田会の皆様へ
皆様の入会金5千円は名簿・会報の発行と年二回の懇親会ご案内費に消されたしました。幹事会で再三にわたり討議いたしました結果、会員の皆様に各自、金壹万円追加会費をいただき、この財政状態を正常化したすこととなりました。まだお納めでない会員のかたは左記までお願いします。(ただし入会金壹万円お払いの方は追加の必要はありません)

富士銀行新橋支店 口座名 音楽三田会(東京都港区西新橋1-10-8) 口座番号 普通 986174番 03355015638

●毎月一回会合しています

毎月第一月曜日夜七時から、帝國ホテル本館地下一階の東京三田倶楽部にて、月例の幹事打合せ会を行っております。音楽三田会会員はどなたでも出席自由です。

たでも出席自由です。

●会員の動静をお伝えします
会員のあらゆる動静をこの掲示板でお伝えします。会員が催す演奏会なり出版なり、宣伝なざりたいことを遠慮なく、どしどしご投稿ください。

●総会についてのご意見を！
音楽三田会を息長く、盛大で楽しいものにしていくために、会のあり方、とくに定例懇親会でのアトラクションなどに、ご意見やアイデアがありましたら、ぜひ幹事にお聞かせくださいますよう、お願いいたします。

「音楽三田会」会則

一、本会は「音楽三田会」と称し、会員相互の親睦と交流を目的とする。

二、本会は、慶応義塾に学び、音楽を職業とするものをもって会員とする。

三、定例懇親会は原則として年二回(一月、七月)開催する。

四、本会は、会長一名、幹事若干名、監事二名、必要に応じて副会長数名を置くものとする。

五、会員は入会の際に入会金(二万円)を納入し、また会合の都度、出席者は参加費を支払うものとする。

付則 一、会報並びに会員の名簿を発行する。

音楽三田会役員

- 会長 服部正雄
- 監事 村田武正
- 代表幹事 油井正雄
- 幹事 寺西春雄
- 石橋裕
- いソ、てル
- 笹野敏
- 大野洋
- 大橋英治
- 大英治
- 岡弘道
- 小川彦
- 小尾光
- 観世旭
- 北村英治
- 喜早英哲
- 黒川昌満
- 小林亜嗣
- 清水久嗣
- 岩尾純一
- 中野純
- 中野純
- 服部紘子
- 姫野紘子
- 峰岸壯
- 三善清
- 山博

事務担当

(編集担当)

(編集担当)

(編集担当)

編集後記

音楽三田会会報第五号をお届けいたします。今回ご寄稿くださいました方々に心から御礼申し上げます。編集に関するご意見がございましたら、ぜひおっしゃってください。